

「平和への感謝」

6月2日、私たちは原爆投下の地「ヒロシマ」を訪れました。

研修前に私たちみんなで考えたスローガンは、「考えよう命の尊さ、感じよう戦争の恐ろしさ～ヒロシマから学ぶ物語～」でした。このスローガンには、被爆者やその子孫の人々の想いを後世に語り続ける、という意味を込めました。

当日、私たちが資料館に行くと、原爆の影響は予想以上にひどいものということがわかりました。ボロボロになった服、火傷の跡やケロイドの写真、原爆が落ちた時の時間をさした時計など、本当に悲惨なものばかりでした。

原爆が落ちた1945年には、少なくとも約14万の人が亡くなっています。十四万人といっても想像しにくいかもしれませんが、それは膨大な数です。その後も、放射線の影響などで亡くなった方が多数います。

原爆投下から72年たった今、このことに関心をもっている人、当時のヒロシマを知っている人は少なくなっています。この研修を通して、命の大切さ、そして今平和であることのありがたさを感じ、二度と戦争のないように考えていくことが大切だと思いました。

ところで、私たちは実行委員を中心に、5分前に集合しようとして声をかけあっていましたが、朝の集合では五分前集合ができませんでした。だから広島で絶対挽回しようとして誓い、気持ちを切り替えてスタートしました。班のメンバーと協力して広島市内を回り、それぞれの集合場所にも5分前より早くそろうことができました。これはみんなの意識が高まったからではないでしょうか。

今平和であることに感謝を忘れずに、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

